

平成30年度第1回 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
石鳩岡神楽・土沢神楽調査委員会 会議録

1 開催日時

平成30年12月10日（月） 午後1時30分～午後3時15分

2 開催場所

花巻市石鳥谷総合支所1階 委員会室

3 出席者

(1) 委員 5名

中村良幸委員（花巻市文化財保護審議会委員）

中嶋奈津子委員（佛教大学非常勤講師、日本民俗学会会員）

川向富貴子委員（岩手県立博物館専門学芸員）

菊池康一委員（早池峰岳流石鳩岡神楽保存会長）

小原克仁委員（花巻市博物館主任主査兼学芸係長）

（欠席：吉田隆一委員）

(2) オブザーバー 1名

日向磨机子 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課主査

(3) 事務局（文化財課）4名

平野克則課長、村田豊隆課長補佐、大内典子主任主査兼文化財係長、川村優子臨時補助員

4 議題

(1) 平成30年度調査事業経過及び今後の調査事項について

(2) 平成31年度調査事業計画について

5 議事録

（委嘱状交付）

(1) 開 会（進行：村田課長補佐）

(2) あいさつ

平野課長：本日はお忙しいところ出席いただき感謝申し上げます。石鳩岡・土沢両神楽の調査については、平成27年度より中村委員・中嶋委員を中心に委員の皆様のご協力により確実に進んでいる。本年度は調査の実質最終年度となっており、3月まで委員の皆様にご協力を挙げて調査をお願いする。そして、来年度には調査報

告書、平成 32 年度からは記録映像を作成する予定である。本日の委員会はこれまでの調査経過と本年度末までに行う調査事項、そして平成 31 年度の調査事業計画についてご協議いただきたい。

(3) 委員長及び副委員長の選任

委員長が決まるまで、文化財課長が議長を務める。

平野課長：委員長・副委員長選任について、設置要綱第 4 条により選任する。どのような方法で選任するか伺う。

小原委員：事務局一任。

(ほか意見なし。)

平野課長：事務局一任という意見があった。事務局案は、引き続き委員長は中村委員、副委員長は中嶋委員をお願いしたい。

(委員一同承認)

平野課長：委員長には中村委員、副委員長には中嶋委員が決まった。よろしく願います。

(4) 報告・協議 (議長：中村委員長)

① 平成 30 年度調査事業経過及び今後の調査事項について

村田課長補佐から、平成 30 年度調査事業の経過について説明。

(協議)

中村委員長：一番気にしているのは 4 ページの「保存会の意識調査」。保存会の人たちが「いくつくらいの時からやっているのか」「どのような形でやっているのか」について、保存会の人たちや後援会の人たちから聞くことだ。周辺の神楽の調査は行っているが、肝心の本体のほう膨らんでいない。石鳩岡神楽と土沢神楽の現在の保存会の人たちや後援会の人たち、あるいは若干地域の人たちも含めて「神楽についての考え方」とか「何歳ぐらいからやって、どういう演目ができるか」というところを、今回の調査で記録として残して置くとよいと思う。その辺が膨らんでいないので、各委員に手分けしてやってもらいたい。インタビューかアンケートとあるが、ただアンケートしても難しいところがある。インタビューをする方がよいと思うが、十何人ずついるところを一人、二人で聞き取りするのは厳しい。その方法をどうするか。ここを膨らませば、将来的に報告書として面白いのではないか。

中嶋副委員長：複数で聞くにしても、伺う内容を統一していたほうが書く時に楽だと思う。行っているいろいろよりある程度決まった内容について伺えるほうがよい。アンケートは結構有効だ。事前資料として決まった質問に返事してもらえるので、それを見ながら「～から習ったのですね。」というやり方だと進めやすい。

中村委員長：その方法が一番有効で進めやすいと思う。聞く項目を決めて、「いつごろから習っている」とか基本的なことをアンケートでとって、それから聞き足りないところを聞いて歩いたら良いと考える。聞くことをきちんと決めて保存会の

人たちにお願いして、それを回収する。

川向委員：記述の内容としては、ライブヒストリー的な、もう少し人間味溢れさせた内容の記述を盛り込むことになるのか。

中村委員長：実際に歴史的なものは形としてあるので、今やっている人たちの考え方等が調査報告として残っていれば、10年後、20年後、30年後に、「この時代の人たちはこういう風に考えたのだ」と記録になる。

川向委員：表に出せる範囲で記録に残すことは有意義だと思う。

中村委員長：この辺を膨らませると今回の調査記録はかなり内容的によくなっていく。個人的には聞いているが、全体を通して統一して聞いていない。「若い人」とか「なぜ始めたのか」「なぜ遠距離から来たのか」直接時間をとって「きっかけ」等を聞く。昨日も埼玉から来て神楽をしていた方がいた。何か「きっかけ」がある。神楽など民俗芸能の後継者不足と言われるが、実際には好きな人もいて間口を拓ければどんどん来る可能性もある。埼玉から来た人や、北上から花巻農業高校に入学してわざわざ通っていた女子生徒もいる。まだ構成員か？

菊池委員：今は離れている。

中村委員長：離れた人からも聞いて、やっていた時のことを聞けると思う。アンケートの内容は今この場が出るか？

中嶋副委員長：どのような形で掲載するかということも考えたほうがよい。一人一人名前を載せてそれぞれの話を載せるのか、テーマごとにまとめるのか、それを決める。そのための事前情報としてアンケートが欲しい。インタビューする前提なので、全員に話を伺うのか、こういう方々から話を聞いたほうがよいかで変わると思う。そこはどうするか？

中村委員長：全員の名前を載せるのも一つの手だが、たぶん掘り下げたい人が出てくると思う。全体からもらったものを一つにまとめ、掘り下げたい人をピックアップして拾うという形のほうがよい。個々に載せるよりは、全体的なまとめとしたほうが有効だろう。単体で一人一人載せるのは喋りにくいこともあると思う。結果としてのまとめと「親子三代、四代でやっているところの家の人」「だれもやっていないが遠くから来た人」「女性でやっている人」とか、ピックアップして聞いて、その人たちはトピック的に載せる。

中嶋副委員長：情報としてもらう紙面のものは、みなさんから書いていただく。その中でこの方をとピックアップするか、直接、何人かの話を聞いてまとめるという形か。

中村委員長：そのほうがよいと思う。聞く項目は「いつ頃からやっているのか」「代々やっているか」「今どういう演目を中心としてやっているのか」「楽器を中心にやっているか」とか聞いて、たとえば「練習でどうなのか」などをまとめて聞く。あとはトピックで取り上げたほうがよいのではないか。「そういえばあの頃は3演目しかできなかったが、10年後には15演目できるようになった。」というのものもあるだろう。他に映像記録もそうだ。残しておくで役に立つのではないか。昭和50年代に早池峰神楽の岳も大償も映像を撮った。今、それが役に立ってい

る。今はもう忘れてしまっているから。全部それをみんな見て、やり直しをしている。記録というのは大事。その当時の記録というのは、歴史的な考察はいつやっても変わらないだろうから、一番変わるのはそういうところではないか。アンケートを会員に出して返事をもらう。それを見ながら進めてはいかがか。2月の会議までに揃っていれば進めやすいと思う。時間を決めて一気に聞くというのは難しい。神楽大会や舞い納めに行って聞き取りをするが、忙しくてやる人も大変だ。聞くほうも次の演目を気にして、聞き取りができない。後援会の人からも2、3欲しいところであるが、それは聞き取りでもよいか。聞き取りでも基礎がないと聞きづらい。アンケートを取ったらやりやすいと思う。

中嶋副委員長：北上市の（調査事業の）時は、アンケートではないが、事前に情報をいただいて、それを持って聞きに行った。話を伺う方は、保存会から「昔を知っている方」とか「何か話題がある方、最近始めた方」とか「遠方から習いに来た方」とか話題性のある方に来ていただいて伺った記憶がある。まずは聞く内容を定めて、それはどなたにも書いていただく。後は私たちが見て、もっと話を伺いたい方と保存会から是非にと選抜された方の話を伺うのはどうか。全員から聞き取るのは時間もかかるし難しいと思う。

中村委員長：それでよいと思う。石鳩岡神楽も土沢神楽もばらばらに聞いているが、統一テーマで聞いている。聞き取りのアンケート内容について、今ここで出るか？

中嶋副委員長：会議が終わってから進めるというのはどうか。

中村委員長：会議は会議として、終わってから相談する。5項目程度か。

中嶋副委員長：大事なところはだいたい決まっている。個人として聞くのなら「なぜやっているか」は欠かせないし、「どういうきっかけか」もいるだろう。

中村委員長：「なぜ、いつごろから。」「どういうきっかけで」「いつ頃から始めたか」ということか。「今後ずっと続けていくか」とか「続けていきたいか」というところが項目になるだろう。それから「今後やりたい演目」とかだと思う。簡単には「やるきっかけ」と「いくつぐらいからやった」とか、「お父さんがやっていた、祖父さんがやっていた」とか出てくるかもしれない。その辺は会議が終わってから。

次は、演目紹介をどこまでやるか、どこまで膨らませるかだ。舎文とか言い立ての本は訳してある。それを皆載せて、演目説明を一つずつするとすごいボリュームになる。果たして全部必要か。ここの演目解説だけで相当なページ数になる。鳥舞の説明を岳流と大償流それぞれに同じようなことを二つ並べて書いてどうだろうか。

中嶋副委員長：報告書の予算によると思う。何ページ書いてよいのかにもよる。報告書はいろいろで、載せるところもあれば、まったく載せないところもある。一つの方法として、今まで見つけた神楽本・言立本があるので、それに何の演目が載っているかを掲載するのもよいと思う。例えば、慶長何年、明治何年の何々本には何の演目が載っている。大正何年の何々本には何の演目が載っている。とい

うように演目を載せると面白い。すると、「その当時はそれをやっていたのか」「今はこれをやっていない」とか分かるので面白いと思う。もし内容を載せるのであれば、今神楽の方々が把握している内容を、数行、短いセンテンスで載せるくらいで、解説は不要と思う。パンフレットもあり、あのくらい短くて的確な内容を載せる。要は「ここにこういう古いのがある」ということが面白いと思う。その当時の演目である。

中村委員長：(報告書の) ページは何ページか？

村田課長補佐：資料 No2の2ページ目、7「その他」のところに案を載せている。300ページを想定している。本文200ページ、図版100ページ。動きは若干あって構わないが、見積はこの分量で想定している。

中村委員長：やっていない項目は、会員の意識調査というところだ。来年度これを増やす。

あと、行事関係は追いかけて、ある程度写真を撮っている。去年と今年で。昨日も石鳩岡のお弟子さんたちとの交流会があったので記録を撮った。今年度舞納めはあるか？

菊池委員：舞納めは石鳩岡はやらない。舞初めはある。

中村委員長：正月の門打ちを撮っていない。

中嶋副委員長：門打ちは私、一昨年行った。

中村委員長：土沢は？

中嶋副委員長：土沢は撮っていない。

中村委員長：それが落ちているかもしれない。一年間、ある程度のところは撮っているので、行事関係は写真とか記録はある。あと、ビデオはデジタルに起こしたか？

村田課長補佐：ビデオはこれからになる。

中村委員長：会議資料は何のリストか。

村田課長補佐：教育委員会で保有しているビデオ等をリストにした。資料No3の10ページから、石鳩岡神楽と土沢神楽それぞれの神楽が映っている映像をリストアップしている。郷土芸能鑑賞会とか市の行事ではいろいろな団体も映っているが、行事の中で石鳩岡神楽、土沢神楽が出演しているものをリストにしている。こちらで持っている分だけしか把握していない。団体や委員の皆さんにこれ以外のもの、公的に撮ったものでなくても映像で残っているものをリストアップしていただき、お借りしてDVDに落としたい。それを今後数か月でやりたい。

中村委員長：全国神楽大会のものもある。第1回の全国神楽大会ハヤチネ'96が総合文化財センターにある。

村田課長補佐：総合文化財センターにある分はまだリストに含めていない。

中村委員長：総合文化財センターにいっぱい保管してある。昨日、平倉神楽の方に聞いたら、一ノ倉保師匠に教えてもらっている風景の映像を持っているそうだ。そういうものも借りてきて一緒に残しておけばよいと思う。調査報告書の中には入れないかもしれないが、ダイジェストで拾ってこういう教え方をしていたと文

字起ししても面白い。

川向委員：確認である。役割分担の中に名前があるので確認したい。デジタル媒体変換のためのリストの選定であるが、映像は動画のみか。

村田課長補佐：はい。今回は動画を考えている。

川向委員：音声のみとか画像のみとかというのは入ってこないのか。

村田課長補佐：今のところは動画だけを考えていたが、その辺はいかがか。

中村委員長：デジタル化の話なので動画しか考えていなかったが、その他に写真がある。

川向委員：博物館には若干あるが、たぶん保存会の方々も今では我々も入手できないような古い紙焼きの写真を持っていて、劣化しつつあるのではないか。

中村委員長：紙焼きの写真もデジタルにしておいた方がよいかもしい。

川向委員：そんなに予算的にはかからないと思うので、紙焼きのデジタル化も予算内で可能であればここまでできると思う。

中村委員長：スキャナーさえあればできる。

村田課長補佐：もし、持ち出してお借りすることが可能であれば、予算もあるが、手作業でできることもあるので。

中村委員長：手作業でできること。

村田課長補佐：動画に限らず昔の画像なり音声なり、可能であればピックアップするという意味で、そういう資料の調査をお願いしてもよろしいか。

(委員一同了承)

中嶋副委員長：写真だと300ページのうち100枚が資料になっているから、よい写真があったら載せたい。

中村委員長：古い写真か。

中嶋副委員長：古い写真もよい。

中村委員長：よいと思う。今撮っているのは最近2・3年の写真である。むしろ、白黒でもなんでも古い写真があれば。

中嶋副委員長：100ページあるから可能だ。

中村委員長：昔の師匠たちが映っているような写真とかがあれば。

中嶋副委員長：保さんと岳の師匠方が一緒に映っている写真もあったと思う。古い物も載せれば神楽の方々にもよい。

中村委員長：古い物を探すのも仕事に入れてもらう。写真、他の物はあるか。個人で持っているものがあれば、アンケートの中に入れればよいのではないか。その他で、古い写真とか、記録はあるか。

中嶋副委員長：スナップだと踊っている人は撮れないので持ってない。後援会や別の方、ファンの方が持っていると思う。

中村委員長：今後の調査事項になっていることだが、2月までにはある程度アンケートは返ってくるようにしたい。回収してから春先に最後それを補足していくことでよいか。

中嶋副委員長：できれば3月くらいまでに聞き取りに歩きたい。

中村委員長：3月くらいまでに聞き取りに歩くなら、今月中にアンケートを出して、1月中に返事をもらい、2月・3月で聞いて歩く。強行軍だがそれが一番安心ではある。次年度に持ち越すよりは、先手、先手で早めに行く。今日（会議）終わってから内容について協議し、12月中に保存会にお願いして書いてもらう。1月いっぱい回収できるように進める。2月・3月に聞き取りをすれば楽だ。難しいアンケートにしなければよいのでは。

菊池委員：すぐ返事はできると思う。

中村委員長：12月中には発送し、1月いっぱいまでに返事をもらう。それをもとにして動く。

中村委員長：30年度はそこまでやる。次に31年度の事業計画について説明をお願いします。

村田課長補佐：デジタル化する部分で時間が欲しいので、4ページ目の調査リスト項目の映像の部分は早めにお知らせいただきたい。1月の半ばを目標にお願いしたい。今日の資料に書き入れる場合は、今日の資料を使っていただいて、文化財課までお知らせ頂ければ助かる。

② 平成31年度調査事業計画について

村田課長補佐から、資料No2により平成31年度調査事業計画の説明

中村委員長：報告書の体裁は何字の何行になるのか。

村田課長補佐：基本的な文章は、1行あたりは33字×26行で2段。イメージは資料No3の表紙になっている文章である。

中村委員長：この体裁33字の26行で2段組み。報告書とすればこういう感じのA4判。これより字が大きいほうがよいなど何かあるか。ボリュームによるが11ポイントか。中嶋委員、北上市の調査事業の時は原稿の体裁は全部決まっていて、それに原稿を打ち込んでいったのか。

中嶋副委員長：事務局から原稿の章と枠を送ってもらい、執筆者はそれに流し込む形だった。そのほうが間違いない。本文を200ページと言っても、ボリュームはそんなに多くなくて、図版の方が結構厚くなっていた。権現様の写真は、かなりの数だった。

中村委員長：大乘神楽は団体数が多く、何十とある。1団体2ページだとしても、それだけで100ページは簡単にいく。

中嶋副委員長：こちらの場合は、周辺のお神楽も知らせる。弟子というより同じ系統の神楽をどういう形で掲載するか、ということもある。

中村委員長：ここまで細かく載せると大変なことになる。簡単に1ページぐらいつつにまとめないとだめかもしれない。

中嶋副委員長：北上市の場合は、本当は1団体1ページだったが、どうしても内容が減らせない場合は、2ページに入り込むときもあった。それによってもページ数が変わっていく。もう一つの大償流の方を載せるか載せないか。調査に行っているが、載せるならどの程度載せるのか。

中村委員長：系統として一関、奥州市の方まで行って調べ、そこまで載せたら大変なことになる。私が表をつくっているの、これに関係したところだけを拾う。何団体か同じように石鳩岡のところで習っている。小山田神楽は今ないのか。

菊池委員：今はない。

中村委員長：夏油は？

菊池委員：夏油は存在している。権現舞程度はやっている。

中村委員長：水押（みずおし）は？

菊池委員：聞いてみないと分からない。

中村委員長：これに平倉が入る。この周辺の浮田とか東和で伝わっているのは、いくらか拾って載せていくかと思っているが。

中嶋副委員長：それも決めていかなければならない。どこを文字として挙げるか。弟子だけだと限られるが、兄弟弟子という視点で見ると、結構な数になるので、どういう形でも書けるように調整はしている。

中村委員長：ぼつぼつと拾っていくしかない。いっぱい数があるため。

中嶋副委員長：手段もいくつかという形で。

中村委員長：夏油は、調べているのか？

中嶋副委員長：夏油は行っていないが、北上の芸能祭りで何年か前にやっていたのを見に行った。どういう経過で神楽が伝わったか、電話で伺ったぐらいだ。

菊池委員：夏油は保師匠が教えた。

中村委員長：水押は分からないか？

菊池委員：分からない。

中村委員長：水押も保師匠が教えたのか。年代的にはそうかもしれない。

菊池委員：教えていないかもしれない。

中村委員長：分からないので、後で聞いてみたい。それでは、ボリュームの不安はあるが、この体裁でいきたいということで進める。表などはどうなるのか。横打ちで、ただ入れていくのか。さき程のDVDや文献などはどうするか。

村田課長補佐：横書の表にするとか。

中村委員長：ページ数を調節しながら入れていく。

村田課長補佐：表も入っているようなので、違和感がないようにしたい。

中村委員長：作ってもらう関係もあるので、さっきの調査表みたいなものに直接入れてもらって、そのまま印刷業者に任せる。各々入れて。

村田課長補佐：いただいたものを一度編集するので、手書きでも結構だ。

中村委員長：足りない分もあると思うが、2月に会議をするそうなので、その時にアンケートとか具体的に出てきたら、それをもとに聞き取りの足りない部分を手分けするということで進めてよいか。さき程（提案）の手分けの部分もあるが、少しでも文字に起こしてもらえれば、それをもとにしてできると思う。

文書（もんじょ）などの書き取りなども二段に？

村田課長補佐：二段にする。

中村委員長：土沢神楽と石鳩岡神楽の写真に撮った資料はみな文字起こしをした。

ただ縦打ちにしているのので、文書（もんじょ）みたいなものは二段に分けておけばよいのか。この岩手の民俗芸能とか撮った資料も載せたい。本田先生のものも載っている。

私が思っているのは、以前に岩手日日新聞に載っていた東和で一生懸命に頑張っていた音楽の先生の記事だ。とてもよいと思う。あの方は保さんの話などいっぱい載せてずっと連載していた。あの記事を引用してそのまま載せたいと思う。日に許可をもらって載せたい。四反田神楽のことを書いているし、石鳩岡の保さんが太鼓を習いに行った時の話もみんな聞き取りして書いていたので、あれは是非そのまま引用して載せたい。面白い話がいっぱいあった。何ページ分か貰いたい。まだページのめどが立たないが、次回集まった時いくらかでも原稿を持ってきて、それでページを見る。300 ページは結構なボリュームだと思う。

中嶋副委員長：訳してもらったものを全部入れても大丈夫だと思う。

中村委員長：石鳩岡神楽の言立て本の最近使っているのは撮っていない。古いのはあるが。

中嶋副委員長：新しいのも入れる。

中村委員長：それでは事業計画のところで、30 年度、31 年度とか先程のアンケートとか補足分とか足りないところが原稿になってくるとたくさん出てくる気がする。この構成の順番を体裁として考えていく。調査に至る経過等、伝承地とかの概観、保存会、構成員、できる演目、衣装、道具、舎文。現状と課題はまだなような気がする。4 の神楽の伝承と歴史のところは、聞き取り等が入る。今昔になっているので、ここに先程の部分を入れる。5 番目の伝承と系譜のところは、どこまで膨らませるかによってページ数が決まる。たくさん神楽の文書を訳しているのだから、あれも載せればすごいことになる。そこまではやれない。晴山神楽のものを除くとこれしか石鳩岡の分は載ってない。これは何年なのか。（書かれているのは）「岳神楽本より写したもの、岳神楽が門打ちに来た時に宿をして、その時に舞の言立て本を写しておいたものと思われる。」と書いてある。だから、演目数がすごく少ない。

菊池委員：そうだ。

中村委員長：これしかない。これが一つだけだ。あと、土沢は明治四十何年のものは全部あるので、それは偏ってしまう。

菊池委員：古くなくてもこういう舎文はある。

中村委員長：舎文関係は演目だけでも載せておいた方がよい。石鳩岡神楽の残っているものは、これと今使っているものだけではないか。

菊池委員：今使っているものと舎文は立派な本になっているものはあるし、ほぼ全部の舎文がある。

中村委員長：菅原盛一郎さんの本に載っているのは、何をもとにしているのか。あれは石鳩岡神楽だろう。基本的には。

菊池委員：そうだ。

中村委員長：あれは誰かが持っていたものか。物はないのではなかったか。

中嶋副委員長：それかどうか分からないが、古いのを持っている方がいて、それがこれか？2冊あって1冊持ってきてくださって、もう1冊は家のどこかにあると言っていた。探してみてくださいと話をした。

中村委員長：これだけでも、全部載せたらすごいことだ。

中嶋副委員長：これは絶対載せたい。

中村委員長：これを文章にして縦に系図にして載せて、この下に新しい人たちのものを付け加えて載せたらすごいことになる。

中嶋副委員長：よい資料だ。

中村委員長：もしこれを載せると、これだけでも50ページになる。報告書はこのような感じになる。

中嶋副委員長：(北上市の報告書) 私のものと同じように。

中村委員長：これに聞き取りを足していけば、3・4ページになる。

中嶋副委員長：報告書だったから抜粋して載せたので、全部載せたらもう少し増える。

中村委員長：文書関係の資料がこれだけ(相当数)ある。全部読めなかったので、市博物館の専門家に読んでもらおうと思う。土沢の面白い狂言がある。あれは絶対載せたほうがよい。「弥次さん喜多さん」が入っている。「忠臣蔵」も。

中嶋副委員長：「今様」も。

中村委員長：あれは完全に芝居だ。

中嶋副委員長：そういう時代があったということだ。

中村委員長：今まで神楽の記録にはほとんどない。こういう狂言をやっていたのだ。今の狂言ではなく、忠臣蔵とか東海道中膝栗毛など。

中村委員長：まず、アンケートを出して2月から3月いっぱいまでに結果をまとめて、量計算する。原稿が揃わないとどこが抜けているのか分からないので、まず資料を集めて、委員の方々には極力書いてもらう。できるだけ会議の前に分かる分だけでも書いてもらう。

中村委員長：正月の関係で、土沢神楽の元旦の行事は時間がわからない。鑓八幡の元旦祭や門打ちがある。この辺が抜けているかもしれないので、吉田委員から聞いて、門打ちだけでも取材したい。(石鳩岡の)元旦祭は？

菊池委員：元旦祭は神社に行って御祈祷と権現舞をするだけである。

中村委員長：門打ちの方が廻って歩いているから面白い。

中嶋副委員長：もし日程が合えば、土沢の門打ちは私が行く。

中村委員長：行けるなら手分けして行く。撮れなかった写真は撮っている方がいるので、どういうところを撮っているか聞いて協力してもらう。

あと委員の皆さんから、これが抜けているとかこれはやった方がよいというものはあるか。

中嶋副委員長：報告だが、弟子ではなくて兄弟弟子という視点で紫波とか石鳥谷のお神楽を調べていたが、あと追えそうなところは1、2か所だ。そこが終わったら一旦終了することにする。どれくらい掲載することができるか分からない。

中村委員長：そこはあまり広げられないかもしれないので、そこで止めておいてもらう。石鳩岡神楽の弟子の方を中心として聞く。

川向委員：年始だけでなく年末の動向が気になる。権現様の御年越など。石鳩岡神楽もお年越がたくさんある。

菊池委員：持っている神社がたくさんある。お願いされている。

中村委員長：百ノ沢とか津島神社はみんな奉納しているのか。

菊池委員：百ノ沢神社はたまたま。本当は土沢神楽だが、土沢神楽が行けない時、支障があった時に頼まれる。今年もそうだった。

中村委員長：奉納神社紹介を加えたらよいか。

菊池委員：そう思う。

中村委員長：神社の写真は撮ってある。由緒書を簡単に半ページぐらいで写真を入れて紹介しておけばよい。

中嶋副委員長：もちろん全部ではなく。

菊池委員：26日には新しい神社の竣工式がある。建て直した。

小原委員：情報として。今県立図書館で「古文書資料の郷土資料展」が開催されている。石鳩岡神楽に関わる資料だが、上小山田村の検地図が出ていた。検地図なので天保年間の神楽衆の名前とか出てくる。歴史の部分でわかることがあるかもしれない。写真は撮っていない。見ただけ。

中村委員長：小山田村誌を調べているが、どこがどこなのか分からない。字名が小さすぎて（細かすぎて）。かといって住宅地図を見ると小山田地区は何区となって小字名が残っていない。（県立図書館の）地図と合わせれば分かるかもしれない。資料として良い。上小山田しかないのか。

小原委員：上小山田だけだった。写真資料がない時代の絵図面はすごい。

中村委員長：2月の会議を開くまで、原稿をできるだけ集まるようお願いしたい。保存会の方々には12月中にアンケートが行くことを伝えてほしい。

川向委員：後援会の方でもだれでもよいので、家に眠っている写真やちょっと撮ったビデオでもどうしていいか分からないものとかがあったなら提供してほしい。文書、道具等も提供してほしい。

中村委員長：それらをアンケートの下に付けておくとよい。「神楽に関する古い写真とか古い文書とか道具をお持ちの方はお知らせください」と一つ入れておくとよい。

中嶋副委員長：アンケートは神楽の方にしか渡らないので、後援会の方々には会長さんから話していただきたい。

中村委員長：後援会の方は写真を持っているかもしれない。

川向委員：動画を撮っている方もいるかもしれない。撮影に来ている（人もいる）。

中嶋副委員長：地元のファンの人の方が踊っている人より持っている。踊っている人に写真を上げると喜ばれる。

川向委員：動画をデジタル化した場合、県立博物館の場合は博物館に保管する分と借用させていただいたお礼としてデジタル映像をコピーしたものを持ち主の方に

お渡しするという事しているが、予算は支出可能か。

村田課長補佐：分量次第ということもあるのと、補助事業でやっている部分もあるので、個人に渡せるか検討する。

平野課長：確認である。資料No3の2「演目紹介」だが、吉田委員にお願いするとき、菅原さんの本と同じレベルで書けばよいのか。

中村委員長：演目ごとの紹介については保留にしておく。吉田委員には土沢神楽の沿革と構成だけ書いてもらう。石鳩岡の古い文書が出てくればそちらの方が重要なので、そっちを膨らませたい。演目紹介はいろいろなところから出ているのでできる。

(5) その他

村田課長補佐：次回の会議は2月で、可能であれば文化庁の調査官も出席をお願いして開催したい。

(6) 閉会